

ぐんまの消防

第43号

令和6年度発行

地域住民の安心・
安全のために

表紙写真 高崎市等広域消防局：救急活動訓練

〈主な記事〉

- p 2 団長の熱き思い(川場村消防団 団長)
- p 3 消防団紹介
- p 4 群馬県消防長会
- p 5 一般県民向け情報
- p 6 女性防火クラブの活動
- p 7 第30回全国消防操法大会に出場して



団長の熱き思い



川場村消防団

団長 砂山 政志

1. 川場村の紹介

川場村は群馬県北部に位置する人口約3,000人の小さな村です。日本百名山の1つ、武尊山の南麓に位置し、5つの一級河川が流れる自然豊かな地域です。川場村は農業+観光の政策に力を入れており、農業では、米・食味分析鑑定コンクール・国際大会にて連続して金賞を受賞している川場村の「コシヒカリ」「雪ほたか」をはじめ、りんごやぶどうなどの果樹も栽培が盛んです。また観光では、道の駅川場田園プラザは年間約270万人が訪れる関東有数の観光地です。

2. 川場村消防団の紹介

川場村消防団は、昭和22年に設置されました。団員数は139名(条例定数141名。令和6年4月1日現在)で、地区単位で分団が配置されており、更に役場職員で構成された分団を加えて全9分団で活動しております。消防車両は、消防ポンプ車4台、可搬消防ポンプ積載車5台の合計9台となっております。

3. 川場村消防団の活動

主な活動は、新入団員訓練(4月)、秋季点検(10月)、防火査察(11月)、歳末特別警戒(12月)、出初式(1月)などがあり、

この他にも村内の花火大会の警備や利根沼田支部の行事(ポンプ操法競技会、ラッパ講習会)にも参加しております。

また、団員の負担軽減の一環として、秋季点検の内容を再検討及びお盆特別警戒を廃止しました。消防団員が活動しやすい環境を整えつつ、今後求められる役割に応えられる消防・防災力を身につける取り組みを模索していく必要があると考えています。

4. 終わりに

全国的に消防団員数が減少している中で、川場村も例外ではなく、新入団員の確保が難しくなっております。現役消防団員の負担が大きくなっております。また近年、全国的に災害が激甚化・頻発化しており、特に気象災害が目に見える形で増えてきております。火災時だけでなく、災害時にも頼りになる存在であることも求められていると感じております。

これからの新時代に対応した消防団活動を継続していくためにも、慣例にとらわれず柔軟な消防団運営に取り組み一方で、地域のための「消防団」としての消防・防災力の質を維持していくために消防団の役割やあり方を改めて考えていきたいと思っております。

令和六年度表彰

長年にわたる消防業務のご功績により、叙勲及び表彰された方々をご紹介します。

瑞宝小綬章

元高崎市 眞下 和宏
元伊勢崎市 吉田 純一

瑞宝双光章

元前橋市 岡部 清
元前橋市 小島誠一郎
元高崎市 中里 悟
元高崎市 大井 守
元高崎市 高橋 登
元高崎市等広域市町村圏振興整備組合 大類 英雄
元伊勢崎市 小杉 周作
元伊勢崎市 高野 久男
元伊勢崎市 氏家 康男
元伊勢崎市 大山 泰弘
元太田市 飯塚 四郎
元太田市 木部 昌明
元太田市 由良 好夫
元館林地区消防組合 池田 義明
元館林地区消防組合 堀井 英雄
元渋川地区広域市町村圏振興整備組合 中村 英敏
元富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合 原田 幹弘
元吾妻広域町村圏振興整備組合 一場 久義
元吾妻広域町村圏振興整備組合 金子 守

瑞宝単光章

元高崎市消防団 須藤 欣司
元みどり市消防団 井上 和之
元みどり市消防団 石原 勉



元館林地区消防組合館林消防団 吉澤 祐志
元前橋市消防団 副団長 鈴木 伸弘
元伊香保町消防団 副団長 原崎 範一

元前橋市消防団 分団長 山田 吉久
元大泉町消防団 分団長 山口 善之
元白沢村消防団 分団長 岡村 忠雄
元上野村消防団 分団長 櫻井 清司
元前橋市 奈良 文夫
元太田市 尾内 英明
元館林地区消防組合 田島 賢次
元館林地区消防組合 新橋 茂

監査褒章

元伊勢崎市消防団 団長 金井 健一
元玉村町消防団 団長 神立 鉄也
元館林地区消防組合千代田消防団 団長 鈴木 唯夫
元館林地区消防組合邑楽消防団 団長 櫻井 広征

県功労者表彰

高崎市消防団 団長 高橋 喜良

県総合表彰

みどり市消防団 団長 鈴木 勉
みなかみ町消防団 団長 林 伸史
元昭和三村消防団 団長 小野 誠
榛東村消防団 団長 金井 大樹
藤岡市消防団 団長 山田 敏弥
富岡市消防団 団長 佐藤 静雄
長野原町消防団 団長 豊田 幹雄
東吾妻町消防団 団長 渡邊 義孝
前橋市消防団 副団長 小沢 幸信
安中市消防団 副団長 林 幸博
桐生市消防団 副団長 林 康郎

消防団紹介



問い合わせ：各市町村役場へ

上野村消防団

上野村は、人口一〇二三人(令和六年十月現在と、県内で最も小さな自治体です。村域周辺は、御荷鉾荒船連山など一〇〇〇〜二〇〇〇m級の山々が座し、険しい山野が総面積の九〇%以上を占めています。村の中央を流れる神流川は、関東地方の水資源を賄う利根川水系に属し、数多くの溪流群によって構成され、国土交通省の水質調査で四年連続で「関東一きれいな川」として認定されたほか、地域の「神流川源流」が、環境省による「平成の名水百選」に選ばれました。

上野村消防団は、本部と八分団で構成され、二一八名の団員が不測の災禍に備え、「自分たちの地域は自分たちで守る」という精神に基づき、地域の安心安全と村民の生命並びに財産を守るため、強固な連携のもと日夜活動しています。

他の山村自治体同様、過疎化が大きな課題となっており、過疎からの脱却のため平成元年度から若い世代を主に対象とした定住対策に力を入れてきました。その結果、団員総数に占める移住者の割合が半数を超えるようになってきました。このような中、各分団を見ますと移住者の先輩団員が経験の浅い団員に対し丁寧に指導しているように感じられます。移住して間もない団員は村の地理的狀況がまだ把握できず、消防団活動は常に危険と隣り合わせであるた

め、指導する側も真剣になります。本年四月には、村内において山林火災が二週にわたり発生し、火災現場での活動が初めての団員も多かったと思います。ヘリコプターによる散水も行われる中、団員一丸となり消火活動にあたりました。土日の発生でありましたが、全体で団員総数の七五%を超える団員が出動しました。

また、今年度は群馬県ポンプ操法競技大会が開催され、上野村消防団は小型ポンプの部で第十九回大会から七大会連続で出場し、第二十五回となる今回は第八分団が出場。団員数が十二名と少ない中、訓練を重ね、上野村消防団としては初となる入賞を果たし、地元出身者と移住者が選手として活躍しました。

消防団員数の減少が全国的に課題となっていますが、先人たちが築いてきた上野村消防団の伝統を守りながら、チームワークを意識し、各種訓練を重ね、有事の際には一つにまとまり、その成果が発揮できるような活動していきたいと思えます。



群馬県ポンプ操法競技大会

甘楽町消防団

甘楽町は群馬県の南西部に位置し、北部は水田地帯が広がり南部は山間部となり、最南部は標高一三七〇メートルの霊峰稲倉山がそびえます。夏場は近年猛暑に見舞われますが、冬は雪害が少なく住みやすい地域です。町の中央に位置する小幡地区は、織田信長の二男「信雄(のぶかつ)」を初代藩主とし八代にわたり統治され、国指定名勝「楽山園」や武家屋敷などが残り、町の歴史的風致を形成しています。一方で、国道バイパス沿いには大型店舗が出店し、賑わいを増しています。

甘楽町消防団は、平成二十九年度の組織再編により、当初の四分団十部から二分団六部となり、団員一三一人により「自分たちの地域は自分たちで守る」という高い志と郷土愛の精神で、町民の安心安全を守るため日々活動しています。

町内四地区で毎年会場を移し、住民参加型の「地域防災訓練」では、住民や地区役員をはじめ、消防団、災害時連携団体等が参加し、消火器訓練、避難所用段ボールベッド組立て、消防ポンプ車による中継消火訓練、ボランティアセンターと自衛隊による炊き出し等を行い、災害に備えています。

また、毎年十月に実施する消防団秋季検閲式に向けた日々の訓練により、団員相互の連携と消防団の団結を図るとともに、火災が起



きやすい冬期に向け、夜間警戒や歳末警戒を行っています。

「群馬県は災害が少ない」と言われることがあります。しかし、近年では台風の大規模化や線状降水帯の頻発により、時には前例を覆すような大災害に見舞われ、地域の防災リーダーである消防団への期待も、ますます高まっています。

複雑化する災害に柔軟に対応できるよう、消防団員各々の基礎知識の習得と訓練の積み重ねにより、有事の際には地域住民の協力のもと、広域消防本部をはじめ関係機関と連携を密にし、スムーズに対応できるよう備えています。

今、改めて我が甘楽町消防団の道程を振り返り、先人が築いてきた古き良き伝統と、地域住民の安心安全な暮らしを守るため、決意を新たに日々精進していく所存です。

『警防救助部会の活動』 群馬県消防長会

警防救助部会では令和4年度、電気災害に対する危険性や特異性を知るため、送電線業者と訓練を行いました。墜落制止用器具の研修を受けるとともに、実践訓練を行い、送電線における高所救助事業への対応力を身に付けました。

令和5年度は、「火災除染」について検証しました。火災現場で発生した有害物質は、体内へ吸収されることで発がんのリスクが高まることから、消防隊員が火災活動中に自身に付着した有害物質を除染せずに帰署することで、どれだけ汚染されるのかを泡に見立てて検証しました。防火衣に泡を付着させ、消防車両へ乗り込むと、車内へ付着する大量の泡が見て取れ、現場で有害物質を洗い落とす（水の除染）ことが最も効果的であることも、積極的に実践する必要があると思われた検証となりました。



今年度も警防救助部会員で検証及び調査研究を重ね、情報共有することともに、技術と資質の向上を目的に活動をしていきたいと考えています。

『消防救助技術指導会』 群馬県消防長会

6月5日(水)、17日(月)群馬県消防学校及び敷島公園水泳場において、『第48回群馬県消防救助技術指導会』が開催されました。この指導会は、救助技術に必要な基本的要素を錬磨する事を通じて、救助活動に不可欠な体力、精神力及び技術力を養うとともに、群馬県内の消防職員が一同に会し、成果を発表することにより、救助技術の更なる向上及び連帯意識の高揚を図ることを目的に開催しております。

声援と拍手が鳴り響き、高まる緊張感の中で、各本部を代表する隊員たちは、培った訓練成果を遺憾なく発揮し、盛

況のうちに指導会を終えることが出来ました。

なお、上位大会の『第52回消防救助技術関東地区指導会』及び『第52回全国消防救助技術大会』に出場した消防本部の結果は次のとおりです。



	訓練種目	代表消防本部	上位大会出場結果
陸上の部	はしご登はん	前橋市消防局	全国消防救助技術大会 出場
	ローブリッジ渡過	高崎市等広域消防局	全国消防救助技術大会 出場
	ローブ応用登はん	高崎市等広域消防局	全国消防救助技術大会 入賞
	ほふく救出	桐生市消防本部	全国消防救助技術大会 入賞
	ローブリッジ救出	桐生市消防本部	関東地区指導会 入賞
		高崎市等広域消防局	関東地区指導会 入賞
	引揚救助	高崎市等広域消防局	関東地区指導会 出場
水上の部	障害突破	桐生市消防本部	関東地区指導会 入賞
	人命救助	高崎市等広域消防局	関東地区指導会 出場
		高崎市等広域消防局	全国消防救助技術大会 入賞
	複合検索	前橋市消防局	関東地区指導会 入賞
		高崎市等広域消防局	全国消防救助技術大会 入賞
	基本泳法	桐生市消防本部	関東地区指導会 入賞
		高崎市等広域消防局	全国消防救助技術大会 入賞
	溺者搬送	高崎市等広域消防局	全国消防救助技術大会 入賞
	溺者救助	前橋市消防局	関東地区指導会 出場
	水中結索	前橋市消防局	関東地区指導会 入賞
水中検索救助	前橋市消防局	関東地区指導会 入賞	

◎前橋市オリジナル「コミュニケーショニングボード」の作成

前橋市消防局

聴覚に障害がある人の中には、救急車を呼んでも救急隊員へ症状を伝えられるか不安があり、救急車の要請を躊躇する人がいます。また、実際に救急車を利用した経験のある聴覚に障害のある人には「何をされるのか全く分からず不安だった。」と、感じた人もいます。救急車に積載しているホワイトボードを活用した筆談では、円滑なコミュニケーションが難しい場合があり、聴覚に障害がある人

の中には文字言語が苦手な人もいるため、筆談以外の新たなコミュニケーションツールの導入が必要でした。

そこで、前橋市消防局では、聴覚に障害がある人と救急隊とのコミュニケーションツールの一つとして、救急活動用の「コミュニケーションボード」を作成しました。県内の消防では、初めての取り組みです。作成にあたり、前橋市聴覚障害者福祉協会、前橋市話サークル連絡会、前橋市手話通訳者協会とともに1年半をかけ検討を重ね、前橋市オリジナルのコミュニケーションボードが令和5年10月に完成しました。

使用方法も含めた「救急隊員向け手話研修会」を令和5年から毎年開催し、延べ160人の救急隊員が受講しました。前橋市オリジナルのコミュニケーションボードは、市内の全ての救急車に積載しており、救急現場で聴覚に障害のある人との円滑なコミュニケーションに役立っています。



Live119映像伝送システムの導入について

館林地区消防組合消防本部通信指令課では、令和6年度からLive119を導入し運用を開始しました。

近年、Live119というシステムがマスコミでも取り上げられる機会が増え、ご存知の方もおられるかと思いますが、Live119とはスマートフォンからの119番通報者に現場や傷病者の状態を撮影していただき、通信指令課のホストPCへ映像を伝送していただくシステムです。

119番通報では必ず通報者の電話番号が表示されることから、携帯電話番号の通報者に対してスマートフォン利用の可否を確認し、若干の通信料(動画投稿アプリにて動画を視聴する程度)が発生する旨を説明したうえで撮影協力を依頼します。

119番通報の通話は継続したまま撮影して頂くことになるため、スピーカー通話への切り替えや、通報電話番号宛てに送信するSMS(ショートメッセージ)からURLをタップして、映像伝送用のカメラを起動させる操作が必要となりますが、専用アプリケーションをインストールする必要はなく、OSのバージョンが古いスマートフォンを除き、ご自分のスマートフォンからでも利用可能です。

言葉では伝えることの難しい現場の状

況でも、映像を伝送いただくことで状況が一目瞭然となり、傷病者の表情や意識状態、負傷状況なども通信指令員が把握出来るため、傷病者に必要な処置の助言をすることや、必要な出動部隊の選定、ドクターヘリの早期要請などに役立てることも可能となります。

メリットは消防側だけでなく、撮影している通報者のスマートフォン画面に、消防側で事前に用意した救命処置の動画を表示させ、通報者に対して視覚的に、行すべき救命処置を視てもらうことが出来るため、傷病者の救命率向上が期待されます。

消防で受信した映像は、専用サーバーへ一時的に保存されるため、ホストPCからの操作で、現場に向かう出動部隊のスマートフォンやタブレットへ送信することも可能なため、現場到着前から活動イメージすることが出来ます。

なお、通報者が撮影した映像はスマートフォン内部に保存されることはないため、第三者が撮影した場合のプライバシー問題やSNS(ソーシャルネットワーク)に投稿されてしまうようなリスクは回避することが出来ます。

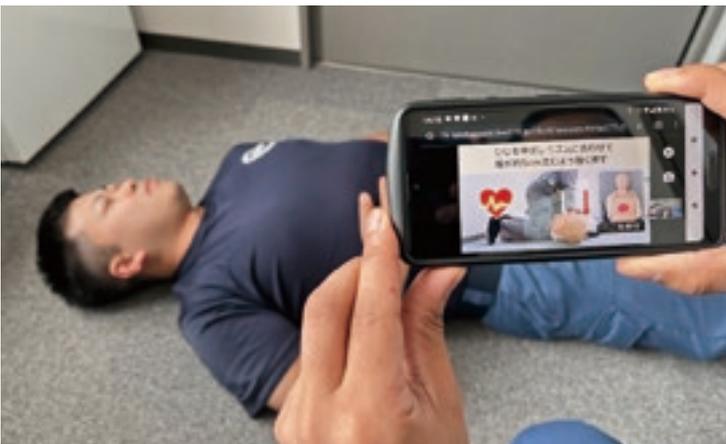
ここまで、メリットばかり述べましたが、もちろん使用上の注意も必要となります。

撮影に協力して頂けるような方は正義

館林地区消防組合消防本部

感の強い方も多く、火災や交通事故現場といった危険を伴う現場へどんどん近づいて行ってしまったりスクもあるため、消防側で危険と判断した場合には撮影を中断したり、スマートフォン画面に注意を促すポップアップ画像を表示させたりする対策も必要で、消防側が知りたいという意識を優先させるのではなく、通報者(撮影者)の安全が最優先となります。

また、冒頭に説明した方法でカメラを起動させることから、スマートフォン操



作に不慣れな方からの通報や119番通報を複数入電する火災事案などで、ホストPCを操作する通信指令員が足りないような状況では、もちろん使用することは出来ません。

このように、有効活用すれば非常に有益なシステムとなりますが、災害を最初に覚知する通信指令員に最も大切なことは、一刻も早く消防隊・救急隊等の部隊を確実に現場へ出動させることです。

このため、館林地区消防組合消防本部通信指令課では、新たな武器となるLive119を適切に有効活用していく所存です。

『婦人消防隊として』

みどり市笠懸婦人消防隊

副隊長

長谷川

佳江

私たち笠懸婦人消防隊は、昭和二十五年に設立され、現在に至っています。

今年も、隊員一団となり、地域の防災に努めております。毎年、四月の総会で一年間の計画を立て、防災訓練炊き出し、歳末夜警訪問、防災講座等を実施しております。

三月に管轄消防署にて行われる防災講座では、消火訓練、地震体験、救急講習(AED)等の研修を職員の方から受けています。

普段、AEDを取り扱うことがないので、忘れていたことも多く、思い出しながら行っていました。改めて繰り返し行うことの重要性を感じています。

私たちの身の回りでも、いつAEDを使う場面が発生するかも知れません。そのような場面に出くわしたら、私は、躊躇することなく、すぐに駆け寄り人工呼

吸やAEDといった救命処置を行い、人命を救いたいと思っています。

地震体験においては、東海地震、南海地震、南海地震がいつ発生してもおかしくない時期に来ており、今年に入り、一月の能登半島沖地震、八月の九州地方で発生した地震など全国各地で大きな地震が発生しています。実際に、地震体験

車で震度七の揺れを体験した時、この揺れの中で「避難が出来るのだろうか?」「この揺れでは、きつと様々な物が落ちて来て、自分の身も危ないんじゃないか?」と思ってしまうました。そのためにも、日頃からの対策と心構えが必要だと改めて感じました。

また、はしご車の体験乗車をさせていただきました。乗車するまではワクワクした気持ちでしたが、どんどん伸びていくはしごのバスケットの中ではドキドキと同時に足が震えてしまい、「こんな高いところで作業をする消防士さんはスゴイ」と頭が下がる思いでした。

研修の最後には、地震や大雨などで、崩れ落ちた家々、山崩れで塞がれてしまった道路、人の命を救うためにどんなことで救助活動を行う消防士のビデオを見せていただきました。

私たちも婦人消防隊として、少しでも皆さんの力になれるよう、年一回の研修をもとに活動していきたいと思っています。



『令和6年度群馬県女性防火クラブ指導者育成研修会について』

群馬県女性防火クラブ連絡協議会事務局

令和六年十月二十三日(水)に群馬県公社総合ビルにおいて、一般財団法人日本防火・防災協会との共催により、群馬県女性防火クラブ指導者育成研修会を開催しました。県内各地から総勢約百七十名の女性防火クラブ員や消防職員などが参加し、盛況を博しました。

第一部では、「伊勢崎市女性防火クラブ」と「富岡甘菜女性防火クラブ」の2つの地区による活動状況発表をしていたいただきました。どちらの地区も火災予防活動に積極的に取り組んでおられ地域の防火意識の高揚に努めていました。

第二部では、一般社団法人とちぎ市民協働研究会の廣瀬隆人氏から「防災と地域づくり」と題して講演をいただきました。廣瀬氏は、宇都宮大学教授などを歴任し、多くの自治体などから講演の依頼があり、多方面で活躍されています。講

演では、地域のつながりが希薄化する、いざ災害があった時に「共助」の機能が低下してしまうので、クラブ員の皆さんこそが、地元のために行動することが大事だとのお話でした。それが「地域づくり」で「地域防災」につながっていくとのことでした。ユーモアあふれるお話で一時間の講演はあっという間に終わってしまい、クラブ員の方からはもう少しお話を聞きたかったと声があがりました。

また、「頼まれれば、YESか、ハイか、喜んで」というワードはとても印象深く、現代社会でこそ地域のつながりを大切にすることがあると改めて実感しました。

研修は長時間に及びましたが、参加の皆様の御協力により大変有意義な研修会となりました。今後このような機会を大切にし、県内女性防火クラブ相互の発展連携強化につなげていきたいと思っています。



事例発表の様子



事例発表の様子



講演の様子

第三十回全国消防操法大会に出場して

片品村消防団長 今井 一文

私たち片品村消防団は宮城県総合運動公園グラウンディ21で行われた「第30回全国消防操法大会」に群馬県代表として出場しました。

この大会は、全国の消防団員が消防操法の技術を競い合う名譽ある大会です。

片品村消防団第三分団がこの大会に出場したのは40年ぶりの度目の快挙となり、成績は前回と同様の優良賞(第9位)という大変素晴らしい結果を収めることができました。

このことは、選手たちの努力はもろろんのこと、片品村消防団が団結して取り組んだ賜であり大変うれしく思います。

消防団員は本業のかたわら、有事の際には率先して行動し、火災時の消火活動はもとより風水害等の発生時においても、地域の安全と安心のために昼夜を問わず尽力しております。

その中において、消防ポンプ操法大会に出場する意味とは、日々の訓練を通じて消火活動を迅速かつ安全に行うための技術を養つのはもちろんのこと、こうした訓練の中で団員同士が団結し、組織力を強固にするのも非常に大切であり、結果、消防団の充実強化に繋がるものと思います。

全国大会出場を目指し、まずは地区予選に臨みますが、利根沼田地区は全国常



連の昭和村消防団、全国入賞経験もある沼田市消防団をはじめ強豪がそろつ県内随一の激戦区となるため、例年より早い寒さの厳しい季節から訓練を開始しました。例年にも増して訓練に力が入ったのは様々な縁が重なったことによります。

第三分団(片品村花咲地区)は私の地元であり出身分団という縁がありました。

また、第二分団が40年前に全国大会に出場した当時の分団長や選手の子どもの多くが今大会に臨む選手、役員とし

て活躍しているといった縁もありました。

さらに、今年から群馬県消防協会副会長を拝命しており、全国消防操法大会へは片品村消防団の結果にかかわらず県出場チームの応援に行くのですが、「団長を一人で全国に行かせない。一緒に全国へ」と盛り上げりをみせてくれました。

この他にも多くの縁が重なり、その全てが繋がり、一つの目標に向かって訓練に取り組んでくれたことについて団長としてとてもうれしく、感謝の気持ちしかありません。

そしてその縁が繋いだ熱意に比べ、私も毎晩訓練に参加し、片品村消防団の全分団、そしてラップ隊とドローン隊からも訓練のサポート体制が構築されていきましました。

重ねて片品村、利根沼田広域消防本部からも全面的に訓練に協力していただき、万全なサポート体制の元、地区大会、県大会を勝ち抜き全国消防操法大会への切符を手にすることができました。

選手や団員は各自の仕事を終えた後、夜遅くに集まって訓練を重ねてきました。

地区大会では土のグラウンド、県大会では芝生の上、全国大会はアスファルトとそれぞれ異なったグラウンドコンディションの中で、効率よく操法訓練を行うために、選手やサポートする団員が工夫して臨んでくれました。

このように団員が一丸となり、その状況下でできる最善の訓練方法を模索しながら、よく頑張ってくれました。

全国消防操法大会「優良賞」に手が届



いたことについて、片品村消防団が一丸となって取り組んだ結果であり選手、団員を誇りに思います。

結びに、今大会までの間、長きにわたる惜しみない協力とご声援をくださった片品村関係者の方々をはじめ、団員とご家族など多くの皆様に心から感謝いたします。

また、夜遅くの訓練にもかかわらず来村の上ご指導いただきました。群馬県消防学校教官の皆様、利根沼田広域消防団員の皆様をはじめ、群馬県関係者の皆様、群馬県消防協会の皆様のご支援に対しても、改めてお礼を申し上げます。

最後になりますが、片品村消防団、そして第三分団の皆様、本当におつかれ様でした。

第25回 群馬県消防ポンプ操法競技大会開催

令和6年8月24日(土)群馬県消防学校

○ポンプ車の部成績 (入賞チーム)

順位	消防団名	得点
優勝	昭和村消防団第1分団	191.00
準優勝	榛東村消防団第1分団	182.50
第3位	太田市消防団第12分団	174.17
第4位	高崎市消防団群馬方面隊第3分団	164.83
第5位	明和消防団第3分団第1班	162.33
第6位	太田市消防団第3分団	160.17

○個人表彰 (ポンプ車の部)

操作員	消防団名	選手名
指揮者	榛東村消防団第1分団	佐藤浩司
1番員	太田市消防団第12分団	高谷秀樹
2番員	明和消防団第3分団第1班	青木洋介
3番員	昭和村消防団第1分団	加藤亮輔
4番員	太田市消防団第3分団	蛭川俊之

○小型ポンプの部成績 (入賞チーム)

順位	消防団名	得点
優勝	片品村消防団第3分団	94.67
準優勝	東吾妻町消防団第5分団	85.67
第3位	上野村消防団第8分団	75.00

○個人表彰 (小型ポンプの部)

操作員	消防団名	選手名
指揮者	東吾妻町消防団第5分団	猪野拓郎
1番員	片品村消防団第3分団	星野雄一
2番員	片品村消防団第3分団	小暮大輝
3番員	上野村消防団第8分団	作 忠博

- ☆表彰者総数 三三四五名 (一〇団体)
 - ☆功労章 一五四名 (一八名)
 - ☆永年勤続功労章 三三四名 (三一名)
 - ☆精勤章 三九一名
 - ☆精勤章 五年勤続 四三三名
 - 一〇年勤続 四〇四名
 - 一五年勤続 四〇二名
 - 二〇年勤続 一九六名 (二一名)
 - 二五年勤続 二二三名 (二六名)
 - 三〇年勤続 一一九名 (五五名)
 - 三五年勤続 三二名 (一〇名)
 - 四〇年勤続 一一名 (一名)
 - 四五年勤続 三名
 - ☆永年勤続退職者表彰 三三七名 (一七名)
 - ☆三世代伝承等優良消防団員顕彰 五名
 - ☆無火災表彰 一〇団体
 - 高崎市消防団南部方面隊第一七分団 一年
 - 高崎市消防団北部方面隊第八分団 一年
 - 桐生市消防団桐生方面隊第八分団 六年
 - 桐生市消防団桐生方面隊第一一分団 四年
 - 桐生市消防団桐生方面隊第一七分団 二年
 - 桐生市消防団新里方面隊第四分団 八年
 - みどり市消防団第六分団 三年
 - 伊勢崎市消防団第二方面隊第七分団 二年
 - 上野村消防団第七分団 三〇年
 - 草津町消防団第四分団 六年
- ()内は消防職員数で内数



2024年度全国統一防火標語

「守りたい 未来があるから 火の用心」

県内の消防の現況

(令和6年10月1日現在)

消防団員数	10,712人	(前年比 183人減)
男性	10,490人	(前年比 206人減)
女性	222人	(前年比 23人増)
消防職員数	2,585人	(前年比 25人増)

発行所 公益財団法人 群馬県消防協会
 前橋市大手町一丁目1番1号
 群馬県総務部消防保安課内
 TEL 027-220-1338
 URL <http://www.gunma-syoubou.jp/>
 編集発行人 公益財団法人 群馬県消防協会
 常任理事 植野敏行
 印刷所 朝日印刷工業株式会社